



「持続可能な開発のための教育（ESD）の
更なる推進に向けて～学校等でESDを
実践されている皆様へのメッセージ～」
（平成29年9月 | 日本ユネスコ国内委員会教育小委員会）
にある図を基に作成しました。

<http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/message.html>

ESD推進ネットワーク全国フォーラム2019

SDGsを地域で達成して いくための人づくり： ESD for 2030を見据えて

日時 2019年12月20日（金）13:00-18:15
12月21日（土）9:30-13:00

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
全体会：国際交流棟国際会議室 分科会：国際交流棟、センター棟

主催 ESD活動支援センター、文部科学省、環境省

共催 独立行政法人国立青少年教育振興機構

後援 日本ユネスコ国内委員会

協力 会津ユネスコ協会、ESD日本ユース／(公財)五井平和財団、(一社)あがのがわ環境学会、
(一社)新宿ユネスコ協会、(一社)地球温暖化防止全国ネット、(一社)長野県環境保全協会、
(一社)日本環境教育学会、(一社)ネクストステップ研究会、大牟田市教育委員会、
岡山ESD推進協議会、岡山市京山地区ESD推進協議会、関東地方ESD活動支援センター、
九州地方ESD活動支援センター、近畿ESDコンソーシアム、近畿地方ESD活動支援センター、
(公財)AFS日本協会、(公財)しまね海洋館、(公財)水島地域環境再生財団、(公財)ユネスコ・アジア文化センター、
(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会(NACS)、(公社)日本ユネスコ協会連盟、
こどもエコクラブ全国事務局((公財)日本環境協会)、四国地方ESD活動支援センター、
JICA 広報室 地球ひろば推進課、信州ESDコンソーシアム、地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)、
中国地方ESD活動支援センター、中部地方ESD活動支援センター、東北地方ESD活動支援センター、
(特非)えひめグローバルネットワーク、(特非)大阪環境カウンセラー協会、(特非)隠岐しぜんむら、
(特非)環境パートナーシップちば、(特非)持続可能な開発のための教育推進会議、
(特非)日本ジオパークネットワーク、(独)国立女性教育会館、日本ESD学会、(認定特非)アクト川崎、
福島工業高等専門学校、藤クリーン株式会社、北海道地方ESD活動支援センター、立教大学ESD研究所

[五十音順]

特別
企画

【フォーラム2日目終了後：日本ESD学会・ESD活動支援センター共同主催】

「教員に役立つ！ESD実践の視点からのSDGs深掘りセミナー」

日時 2019年12月21日（土）14:30-17:00 会場 国際交流棟 2階 第一ミーティングルーム



ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development

開催目的

1. ESD 推進ネットワークのこれまでの成果について確認する。
2. ESD に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）の後継プログラムである「ESD achieving for SDGs（ESD for 2030）」を踏まえて、その国内実施に向けた提案につながる意見交換を行う。
3. 参加者・参加組織・団体による連携の契機とし、全体として、ネットワークのさらなる発展に向けた機会とする。

アンケートご協力をお願い

本フォーラムご参加の皆様にはアンケートのご協力をお願いいたします！
両日ご参加の方はもちろん、1日のみ・1セッションのみご参加の方も可能な範囲で是非ご回答ください。今回の全国フォーラムの振り返りや次回以降の改善のための貴重な資料とさせていただきます。

※アンケート用紙をご利用の方は、受付にご提出ください。

※アンケートフォームをご利用の方は、下記よりアクセスしてください。

アンケートフォーム

<https://business.form-mailer.jp/fms/76086e23114816>



ESD 活動支援センター公式ウェブサイト・SNS・ ESD 関連カレンダーについて

ESD 活動支援センターでは、「ウェブサイト」「SNS」、ESD 関連催事を掲載する「ESD 関連カレンダー」にて、ESD・SDGs に関する情報を発信しています。それぞれ下記よりご覧ください。SNS は是非いいね！/フォローをしてご活用ください！

ESD 活動支援センター(全国センター)
公式ウェブサイト



全国センターFacebook ページ



各地方センター
公式ウェブサイト (リンク集)



全国センターTwitter



ESD 関連カレンダー



プログラム

■ 12月20日（金）13:00～18:15（受付 12:15～）

総合司会：平野 啓子さん

（日本ユネスコ国内委員会広報大使／語り部・かたりすと）

12:15～	受付
13:00～	開会挨拶
13:15	平下文康さん（文部科学省 文部科学戦略官（国際）／日本ユネスコ国内委員会 副事務総長） 中井徳太郎さん（環境省 総合環境政策統括官） 阿部 治さん（ESD 活動支援センター センター長）
13:15～	セッション1：ESDの国際動向・国内動向
14:15	本フォーラムでの意見交換の基本となる事項の共通理解のために、国内的・国際的見地から、文部科学省・環境省施策の動向について情報共有が行われます。 1. 文部科学省施策及び関連国際動向について 大杉住子さん（文部科学省国際統括官付 国際戦略企画官／日本ユネスコ国内委員会 事務局次長） 2. 環境省施策及び関連国際動向について 三木清香さん（環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室 室長）
14:15～	セッション2 パネルディスカッション：
16:05	SDGsを地域で達成していくための人づくりとそのためのネットワークのさらなる展開 地域でESDに取り組んでいる教育委員会、学校、社会教育、自治体、企業等のセクター別の実践の例に学びながら、SDGsを地域で達成していくための人づくりについて、ローカルとグローバルを関連づけながら、ESDがさらに広がり深まるために、今後、ESD推進ネットワークをどのように発展させることができるのかについてパネルディスカッションを行います。 <パネリスト> 【教育委員会の立場から】齋藤修一さん（福島県只見町教育委員会 前教育長／只見町ブナセンター長） 【学校の立場から】輪湖みちよさん（墨田区立両国中学校 主任教諭） 【社会教育の立場から】山口慶子さん（島根県立しまね海洋館） 【自治体の立場から】東福光晴さん（富山市環境政策課 課長代理） 【企業の立場から】池内計司さん（IKEUCHI ORGANIC株式会社 会長） <モデレーター> 及川幸彦さん（東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 主幹研究員）
(20分)	休憩
16:25～	セッション3 グループディスカッション：地域でESDを広め、深めるための課題と工夫
18:10	参加者自身のESD実践や関心に基づき、ESD for 2030の国内実施に向けて、自分ごととして、グループディスカッションを行います。 <ファシリテーター> 松原裕樹さん（NPO法人ひろしまNPOセンター 事務局長／中国地方ESD活動支援センター）
18:10～	事務連絡
18:15	
18:45～	交流会（会費制） 司会：腰塚安菜さん（ニュースメディアライター／株式会社博報堂勤務）、 落合真優さん（ESD活動支援センター）
20:00	会場：国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟2階 レストラン「とき」

■ 12月21日（土）9:30～13:00（受付9:00～）

総合司会：腰塚安菜さん

（ニュースメディアライター／株式会社博報堂勤務）

09:00～ 受付

09:30～ セッション4 分科会：「ESD for 2030」を見据えたESD推進のあり方

11:30

分科会1～4のテーマごとに、ESD実践に関わる話題提供を受け、学校、企業、ユース、体験活動を提供する組織等の視点から、「ESD for 2030」の国内実施計画の策定に向けての提案のために意見交換を行います。
なお、分科会5においては、「ESD for 2030」で課題となることが想定される技術革新とESDのテーマについて学び、他の分科会と同様に「ESD for 2030」の国内実施計画の策定に向けての提案のために意見交換を行います。

分科会1 新しい学習指導要領をふまえた社会とすすめるESD

<話題提供>

- ①居原田 晃さん（沖縄県竹富町立上原小学校 校長）
- ②建元喜寿さん（筑波大学附属坂戸高等学校 WWL 推進委員会 委員長・主幹教諭（農業科））

<ファシリテーター>

中澤静男さん（奈良教育大学次世代教員養成センター 准教授／近畿ESDコンソーシアム 事務局長）

分科会2 企業がめざす地域におけるSDGs人づくり

<話題提供>

- ①食とくらしのサステナブル・ライフスタイル研究会
坂本真紀さん（味の素株式会社 広報部 ディレクトコミュニケーショングループ長）
井上紀子さん（花王株式会社 ESG 活動推進部 マネジャー）
- ②高林慎享さん（株式会社タカラトミー社会活動推進課 課長）

<ファシリテーター>

石丸哲史さん（福岡教育大学 教授）

分科会3 ユースと共に進めるマルチステークホルダーの連携

<話題提供>

- ①大貫萌子さん（慶應義塾大学2年/SDGs-SWY）
- ②神垣 匠さん（公益財団法人岡山県環境保全事業団 環境学習センター「アスエコ」／ESD日本ユース）

<ファシリテーター>

飯田貴也さん（NPO 法人新宿環境活動ネット 理事・事務局長／ESD日本ユース）

分科会4 体験活動を提供する組織内のESD意識醸成

<話題提供>

- ①渡邊剛志さん（国立青少年教育振興機構本部総務企画課 課長補佐）
樋口 拓さん（国立青少年教育振興機構本部調査広報課 課長補佐兼青少年教育研究センター企画室長補佐）
- ②鈴木雄介さん（伊豆半島ジオパーク推進協議会 専任研究員）

<ファシリテーター>

大崎美佳さん（北海道地方ESD活動支援センター／環境省北海道環境パートナーシップオフィス（EPO北海道））

分科会5 AI等の技術革新と教育・人材育成について考える

<話題提供>

- ①中村和彦さん（東京大学大学院農学生命科学研究科 助教）
- ②秋永名美さん（株式会社リバネス 創業開発事業部/リバネスシンガポール 取締役 CAO）

<ファシリテーター>

近森憲助さん（鳴門教育大学 客員教授）

(15分) 休憩

11:45～ **セッション5 全体総括**

12:45 分科会の共有と全国フォーラム 2019 成果のとりまとめを行います。

<モデレーター>

棚橋 乾さん(多摩市立連光寺小学校 校長/全国小中学校環境教育研究会 副会長)

12:45～ **閉会行事**

13:00 **閉会挨拶** 高口 努さん(独立行政法人国立青少年教育振興機構 理事)

事務連絡等

[全国フォーラム 2019 全期間]

■ 12月20日(金) 12:15～ 12月21日(土) 13:00

展示企画

地域ESD拠点、全国規模の協力団体、関連省庁、ESD活動支援センター(全国・地方)による展示を行います。

会場：国際交流棟1階 国際会議室内および同会議室前室

[全国フォーラム 2019 1日目終了後]

■ 12月20日(金) 18:45～20:00

交流会

会場：カルチャー棟2階 レストラン「とき」 会費：1,000円

【プログラム】

1. 開会
2. 語り・手話語り
平野啓子さん(日本ユネスコ国内委員会広報大使/語り部・かたりすと)
『枕草子』より「春はあけぼの」
3. 乾杯
4. 懇談
5. 閉会

[全国フォーラム 2019 2日目終了後]

■ 12月21日(土) 14:30～17:00

教員に役立つ! ESD実践の視点からのSDGs 深掘りセミナー

特別企画として、日本ESD学会とESD活動支援センターの共同主催によるセミナーを開催します。

会場：国際交流棟2階 第一ミーティングルーム

【対談：先生と子どもを元気にするESD-SDGs】

中澤静男さん(奈良教育大学次世代教員養成センター 准教授/近畿ESDコンソーシアム 事務局長)

及川幸彦さん(東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 主幹研究員)

セッション1 ESDの国際動向・国内動向

「ESD for 2030」に向けた動きと「ESD 国内実施計画」のレビュー

大杉 住子（おおすぎ すみこ）

文部科学省国際統括官付 国際戦略企画官／日本ユネスコ国内委員会 事務局次長

プロフィール

1997年、文部省（現・文部科学省）入省。幼児教育、大学教育、キャリア教育など教育分野を中心に担当し、愛媛県教育委員会保健スポーツ課長、在イタリア日本国大使館文化科学アタッシュなども歴任。2014年から文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室長として学習指導要領改訂の中核を担い、2017年から独立行政法人大学入試センター試験・研究統括補佐を経て2019年から現職。

発表の概要

我が国においては、ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）の採択といったESDに関する国際的な動きに対応して、2016年に「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム」実施計画（ESD 国内実施計画）を策定しました。GAP最終年にあたる本年には、ESD 国内実施計画の総括的なレビューを実施することとなっています。

また、GAP後継枠組である「ESD for 2030」が本年11月のユネスコ総会で採択され、今月には国連総会でも採択される予定です。「ESD for 2030」については今年9月には東京の国連大学でプレ・ローンチセッションが開催されましたが、これに続き、来年2020年6月にはドイツ・ベルリンで「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催され、正式に「ESD for 2030」が始動します。

本発表では、「ESD for 2030」の概要と今後の見通し、ESD 国内実施計画のレビューの進捗状況について報告します。



セッション1 ESDの国際動向・国内動向

SDGs、地域循環共生圏、その人材育成に取り組むESDの推進

三木 清香（みき きよか）

環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室 室長

プロフィール

1993年東北大学理学部生物学科卒業。1994年から2007年まで衆議院調査局にて調査業務に従事。2007年政策研究大学院大学知財プログラム修士課程修了。2007年から2019年まで文部科学省で科学技術行政事務に従事。うち約3年間は同省の政策研究所に勤務。2019年7月に環境省環境教育推進室長及び民間活動支援室長(併)に着任し現在に至る。

発表の概要

持続可能な発展にむけて社会変革が必要とされている背景及び世界的な目標であるSDGsに触れた上で、地域でSDGsを展開する「地域循環共生圏」のコンセプトを御紹介することによって、ESD推進の社会的意義を会場と共有します。続いて、環境教育からESD、SDGs4.7への歴史的な流れと、ESDとSDGsの関係、ESD推進ネットワークについて、御紹介します。

また、ESD国内実施計画に基づき2016年度から推進してきたESD推進ネットワークは、全国センター、地方センターの開設、100を超える地域ESD拠点の登録が行われ、全国各地で活発な活動が展開されるようになりました。これまでのネットワークの成果のとりまとめ概要についてお知らせすることで、今後のESD推進ネットワークの更なる展開に向けた課題と展望を議論する際の共通の足場を、会場の皆様と共有してまいります。



セッション2 パネルディスカッション：

SDGs を地域で達成していくための人づくりとそのためのネットワークのさらなる展開

【教育委員会の立場から】 ESD への期待と只見愛

齋藤 修一（さいとう しゅういち）

福島県只見町教育委員会 前教育長／只見町ブナセンター長

プロフィール

○現在、福島県只見町ブナセンター長

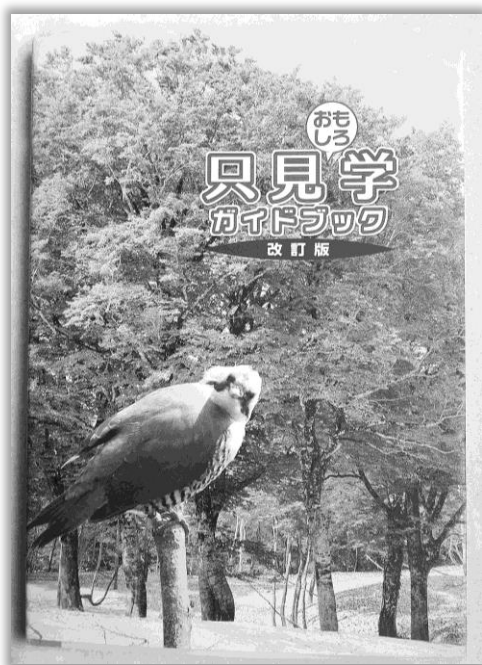
ユネスコエコパークの町として、「人と自然の共生」の理念を総合行政として推進している。

○前福島県只見町教育委員会教育長

2 期 8 年 学校教育面では、小中・県立只見高等学校の学力向上、ESD や海洋教育推進、公営塾設
営、山村留学制度の学生寮増設等に取り組む。生涯学習面では、只見学の創設、松下政経塾との連携
による人材育成等に取り組む。

発表事例の概要

- 1 ESD への大いなる期待！ ～後悔～
 - ・ ESD の 3 つの価値について
- 2 ユネスコエコパークの町で「只見愛」の育成 ～再発見～
 - ・ 厳しい只見町
 - ・ 只見学
- 3 ネットワークの更なる展開 ～脱皮～



セッション2 パネルディスカッション：

SDGsを地域で達成していくための人づくりとそのためのネットワークのさらなる展開

【学校の立場から】 地域との関わりに学ぶ都市部の中学生

輪湖 みちよ (わこ みちよ)

墨田区立両国中学校 主任教諭

プロフィール

2007年から東京都中学校社会科教員として勤務する。東日本大震災をきっかけにESDへの関心が高まり、教科や総合的な学習の時間に国際理解・防災・街づくり学習等を行ってきた。墨田区では地元町会やNPO、区職員等の協力を得て学習活動に取り組み、地域の人々との関わりによって生徒の意欲が高まることを実感した。

発表事例の概要

両国中学校は、国技館や江戸東京博物館、東京都慰霊堂に隣接するいわゆる「下町」地区の公立中学校です。しかし、校区から通う生徒は全体の半数程度であり、地域との関わりは希薄に感じます。部活動や習い事に忙しい生徒達は、地域に貢献したいと思いつつも、自分の力を活かせる場面を見いだせずにいます。

そこで、社会科や総合的な学習の時間、特別活動といった学校の教育活動を通して地域の方々と関わり合う機会を設けました。特に、30年間に70%の確率で起こるとされる地震において北部を中心に家屋倒壊や火災の被害が予測される地域であることから防災・減災学習を軸にした取組を行っています。フィールドワークやインタビューで直接地域の方と接する中で、生徒はお世話になった方々の名前を覚え「〇〇さんのために～～したい」と責任をもって学習に取り組むようになりました。その姿を見た地域の方々も「生徒のために」と学校教育に関わり続けてくださっています。



セッション2 パネルディスカッション：

SDGs を地域で達成していくための人づくりとそのためのネットワークのさらなる展開

【社会教育の立場から】 自ら学びあい、動くネットワークづくり

山口 慶子（やまぐち けいこ）

島根県立しまね海洋館

プロフィール

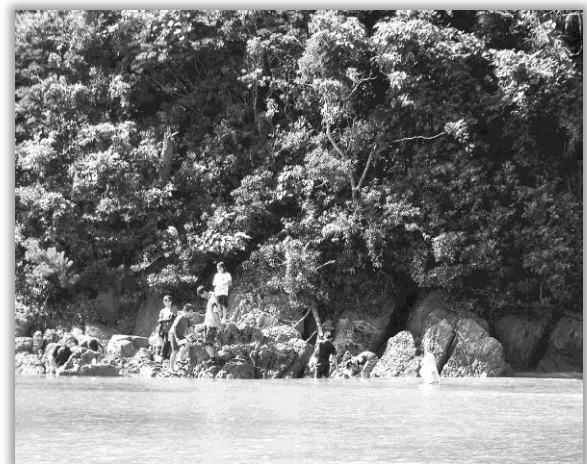
生き物を通じた社会教育に携わりたくて水族館の飼育スタッフの道へ。いくつかの水族館で勤務したのち、しまね海洋館開館準備のため石見に移住し、展示の立ち上げに携わる。現在は県内小学校の子どもたちと川でガサガサ、磯で生き物さがし、学校へ出張授業に明け暮れる。

発表事例の概要

しまね海洋館を拠点として結成されているチーム「いわみっこ大作戦！」は、多様なメンバーが参画し、地域小学校の支援を行っています。月1回程度のミーティングも継続し、それぞれのメンバーが得意分野でリーダーシップを発揮しています。

このチームは「持続可能性」と「環境教育」をテーマに開催した研修会の参加者で結成されています。研修会企画の段階から、ネットワークがすぐ動き出せる仕組みをあらかじめ考え、関りが持てそうな人材を企画者として巻き込みました。かねてから当館の実践対象となっていた小学校での活動をESD化するという目標もすぐに準備でき、機会を逃さずに実践に移ることができました。

いわみっこの活動により、子どもたちの学びが深まったことはもちろん、いわみっこメンバーの学びが非常に大きなものとなっています。



セッション2 パネルディスカッション：

SDGs を地域で達成していくための人づくりとそのためのネットワークのさらなる展開

【自治体の立場から】 「とやま地域循環共生圏づくりプラットフォーム」 による産学官金が連携した地域の担い手づくり

東福 光晴（とうふく みつはる）

富山市環境政策課 課長代理

プロフィール

平成9年富山市役所に入職。平成22年政策研究大学院大学修了。同年よりESDを推進するユネスコスクールを中心に、公共交通の大切さを小学生に伝えるモビリティ・マネジメント教育（のりもの語り教育）を企画し、後に全小学校での実践へと繋げる。平成27年から現職。平成30年から富山市SDGs推進本部事務局にてSDGsの推進及びSDGs教育を担当。

発表事例の概要

昨年SDGs未来都市の選定を受けた富山市では、多様なステークホルダーと連携して地域課題の解決に取り組むため、行政がハブ&スポークの機能を持つ「とやま地域循環共生圏づくりプラットフォーム」をつくり、SDGsを実践する人材の育成や課題の共有、プロジェクトの社会実装に取り組んでいます。今回、「2030カードゲーム」を全学生に展開する富山第一高校において、金融機関と自治体が連携したSDGs教育の実践と、富山大学が来年度本格導入を目指す全学横断PBLと地域PBLに対して、自治体や企業が協働する「共創型ローカルパートナーシップ」の事例をご紹介します。学生が「自分ごと」としてSDGsを理解するとともに、まちづくりのプロとの対話により地域課題を考え、具体的な提案を繰り返すことで、シビックプライドの醸成や地元企業への関心を高めるだけでなく、企業もビジネスチャンスに繋がる—こうした好循環を持続的にしていくための挑戦が続いています。



セッション2 パネルディスカッション：

SDGs を地域で達成していくための人づくりとそのためのネットワークのさらなる展開

【企業の立場から】 種からタオル

池内 計司（いけうち けいし）
IKEUCHI ORGANIC 株式会社 会長

プロフィール

IKEUCHI ORGANIC 代表。2073 年までに赤ちゃんが食べられるタオルを創るを目標に、最大限の安全と最小限の環境負荷にこだわる今治のタオル会社で、SDGs は⑫のつくる責任つかう責任に徹して ESD 教育をしている。

発表事例の概要

・種からタオル（どのようにモノはつくられているのか？）

身近な商品で具体的な説明をすることで SDGs の概念が理解できる手応えを感じるので「⑫つくる責任 つかう責任」に特化して説明をしています。つかう人の考え次第で地球は変わるを力説しています。

・つくる楽しさを一緒に体験する

愛媛県が実施している「えひめジョブチャレンジ U-15」に参加してわかったことは、モノづくりに興味のある中学生は極めて多いが、それに応える企業が少ないということです。自分が実際に体験したモノづくりの現場が地元が無いので都会へ就職している事もわかりました。地元のモノづくりが世界に連動しているという考えで ESD 拠点をやっています。



セッション4

分科会1：新しい学習指導要領をふまえ社会とすすめる ESD

話題提供① **西表の自然や伝統文化を継承、保護、発展させ、持続可能な「わった一島」づくりに向けて、主体的に行動できる児童の育成をめざして～地域と学校が学びで繋がる活動を通して～**

居原田 晃（いはらだ あきら）

沖縄県竹富町立上原小学校 校長

プロフィール

大阪出身。平成元年に沖縄教育委員会に採用。特別支援学校、小学校では特別支援教育を専門としていた。二度、日本人学校に勤務。（クアラルンプール日本人学校と台北日本人学校）校長として、竹富町の西表島にある現任校に勤務し、地域の自然や伝統を継承、発展させる児童の育成に力を入れ、現在に至る。

発表事例の概要

本校は、竹富町にある西表島の北西部に位置し、児童数 90 名の学校です。島には、イリオモテヤマネコをはじめ、西表島にのみ生息する動植物が多数いて、現在、世界自然遺産の登録を目指しています。また、地域の祭りや伝統芸能も多数あります。学校の教育目標の1つに「自然と文化を大切にし郷土を愛する子」を掲げこの豊かな自然や伝統文化を継承、保護、発展させる取り組みを行っています。竹富町が推進している海洋教育をはじめ、地域芸能のデンサー節の継承、学校の伝統である創作獅子舞等の教育活動を通して、新学習指導要領のもと、地域と学校が協働し、学びで繋がる開かれた教育課程の編成を行っています。今後は、地域とともに SDGs の達成を取り入れた ESD を推進していきたいと思っています。話題を提供し、フロアの皆さんからたくさんのご示唆を頂きたいと思っています。



セッション4

分科会1：新しい学習指導要領をふまえ社会とすすめるESD

話題提供② 総合学科の特性を生かした高等学校におけるESD for 2030

建元 喜寿（たてもと よしかず）

筑波大学附属坂戸高等学校 WWL 推進委員会委員長・主幹教諭（農業科）

プロフィール

筑波大学附属坂戸高等学校農業科主幹教諭。学校内に、クヌギとコナラからなる学校林を20年前から造成。地域の養蜂農家と連携したミツバチ栽培に取り組んだことも。2008年から2010年JICA青年海外協力隊に環境教育の職種でインドネシアに滞在。現在は、学校は埼玉県ESD拠点に登録されている。

発表事例の概要

筑波大学附属坂戸高等学校は、1994年に日本ではじめて総合学科を開設した高校の一つです。校内には、およそ2haの農場と、クヌギとコナラからなる「学校の森」があり、農業科の授業だけではなく「食育支援」や「子ども食堂」など、地域に開かれた活動が実践されています。2年次には「T-GAP（つくさかグローバルアクションプロジェクト）」を生徒全員が履修し、高校生自らが社会課題をみつけ、解決にむけた活動を社会とつながりながら実践しています。

2012年からは、国内外の高校生が参加する「高校生国際ESDシンポジウム」を毎年開催し、各校のESD活動をベースにした交流を継続しています。SDGsの達成に向けて高等学校がどのような役割を果たすことができる可能性があるか、具体的な実践例を交えてご紹介したいと思います。



セッション 4

分科会 2：企業がめざす地域における SDGs 人づくり

話題提供① 企業が共同で取り組む ESD ～SDGs ターゲット 12.8 への貢献をめざして

食とくらしのサステナブル・ライフスタイル研究会

坂本 真紀（さかもと まき）

味の素株式会社 広報部 ダイレクトコミュニケーショングループ長

プロフィール

味の素(株)に入社後、スタッフ・営業部門を経た後、事業部門でマーケッターとして「ほんだし」、「コンソメ」等の開発。2012年より環境部門に異動し、環境コミュニケーションを担当（サステナビリティレポートの編集、環境教育・イベント等）。2019年2月より現職。工場見学などを通じた生活者への直接コミュニケーションが主務。

井上 紀子（いのうえ のりこ）

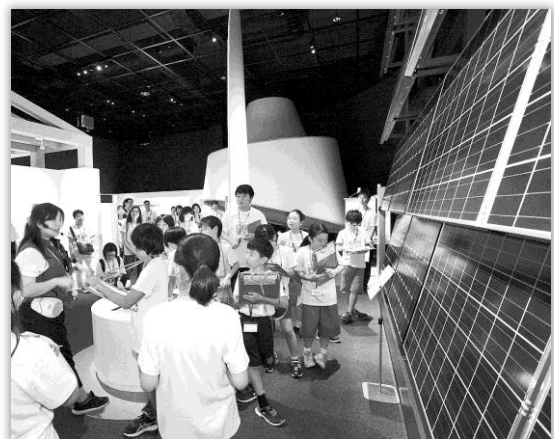
花王株式会社 ESG 活動推進部 マネジャー

プロフィール

花王に入社後、研究開発部門を経て、2005年に生活者研究センターに異動し、国内外でさまざまな生活者研究を実践。生活者の環境意識調査を行い、環境啓発活動に関わり始める。2017年より現職。主に生活者に向けた環境・SDGs コミュニケーション（次世代教育、啓発イベント、展示会、等）を担当。

発表事例の概要

「食とくらしのサステナブル・ライフスタイル研究会」は、味の素と花王、イースクエアが、よりサステナブルなライフスタイルの実現に、身近な食やくらしから貢献しようと、2011年に立ち上げた研究会です。どのように働きかけると私達の事業のお客様である生活者がこころ豊かでサステナブルなライフスタイルを実現できるかをテーマに研究する中、地域に根ざして、家族ぐるみで楽しくでき、やったことが褒められるという要素をいれた体験型環境教育が効果的だという仮説が生まれました。そこで、川崎市と共同で、小学校5年生とその保護者向けのプログラム「夏休みチャレンジ」を開発、2016年から実践しています。この活動は、SDGs12、特にターゲット12.8への貢献につながると考えており、本プログラムの特長や、企業・自治体等が共同で取り組む価値を紹介することで、さまざまな地域で、効果的な活動が広がることを期待しています。



セッション 4

分科会 2：企業がめざす地域における SDGs 人づくり

話題提供② 『100 ねんあそぼ』 おもちゃからはじめる次世代教育

高林 慎享（たかばやし のりゆき）

株式会社タカトミー社会活動推進課 課長

プロフィール

2010 年新設された環境課の窓口となり、おもちゃを通じた「エコトイ」活動を推進。2016 年、目や耳の不自由な子どもと一緒に遊べる「共遊（きょうゆう）玩具」業務が加わり、現在の社会活動推進課となる。児童に身近な玩具を教材にした「環境」「共生社会」出張授業プログラムを、社内教育と連携する「共育」活動として展開中。

発表事例の概要

私たちは、おもちゃを通じて子どもたちと課題を共有し一緒に「持続可能な社会」「共生社会」を形成し続けたい！という想いを『100 ねんあそぼ。』の言葉に込めています。

これまで当社が取り組んできた経験や教育現場とつくり上げた授業プログラムをいかし、本社がある葛飾区の子どもたちに教育機会・成長機会を提供することにより、地域社会との関りを深めています。この活動が目指す未来は、子どもたちがおもちゃに込められた環境・共生社会への想いを知り、自分たちも能動的に考えるきっかけとなり、持続発展可能な地域社会の創出に寄与していくことです。

2018 年から、葛飾区内全ての小学校（50 校）を対象に、グループ会社も含めた新入社員が講師となる出張授業を通じ社員自らも学びを得る「共育：ともに育む」を実践しています。

2019 年から、ESD 活動支援センターと連携する新たな試みがスタートしました。

当社は地方には支店がなく、全国的な活動ができないことが課題です。各地域で主体的に活動されているみなさまの活動と当社のイベント・展示会ツールや出張授業プログラムを活用いただくことで、お互いの活動がよりよいものになっていくことを期待します。



セッション4

分科会3：ユースと共に進めるマルチステークホルダーの連携

話題提供① ユースとしてサステナビリティを考える意義

大貫 萌子（おおぬき もえこ）

慶應義塾大学 2年/SDGs-SWY

プロフィール

現在、大学にて SDGs を学ぶとともに学外でも様々な活動を楽しんで行っている。小学生時代を過ごしたアフリカで感じた社会への疑問からこれまで様々な問題意識を持ち、自分ごと化し、向き合ってきた。ユースの強みを活かし、多くの人と連携して社会にグッドインパクトを与えていきたい。

発表事例の概要

幼い頃から社会問題、環境問題に関心を持ち、高校時代より SDGs について考え、「高校生として、大学生として今の自分ができること」として様々な活動を行ってきました。SDGsに取り組む中で、ユースだからこそできること、ユースの強みは沢山あります。その一方で、ユースのみで行えること、与えられる影響力はまだまだ小さいとも言えます。身近に溢れる問題を「自分ごと」として捉え、向き合うユースは現在とても多いですが、サステナビリティを考える上で、「ユース」「大人」「企業」「政府」と言った立場で分けて取り組むのではなく、共通の問題に向き合うものとして連携することがとても重要です。これまでの活動の紹介と併せて、自身が取り組む中で感じてきたこと、どのように周囲と協力して活動してきたか、これらの活動に見出す意義などについてお話しします。



セッション 4

分科会 3：ユースと共に進めるマルチステークホルダーの連携

話題提供② 岡山でのユースを巻き込んだ取組事例の紹介

神垣 匠（かみがき たくみ）

公益財団法人岡山県環境保全事業団 環境学習センター「アスエコ」／ESD 日本ユース

プロフィール

平成 27 年 4 月 公益財団法人 岡山県環境保全事業団入団。

現在は、環境学習センター「アスエコ」に所属し、環境学習や県内の環境に関する普及啓発を中間支援的に行う業務に携わる。私的な活動としては、SDGs×ユース・ネットワーク・ミーティングの開催など SDGs に関心があるユースの発掘・仲間づくりにも取り組んでいる。

発表事例の概要

私は現在、地元岡山でユースを巻き込む活動に公私共に携わっています。

公の取組としては、岡山県環境学習センターアスエコで、環境学習や県内の環境に関する普及啓発を中間支援的に行う業務に携わっています。また、私的な活動としては、SDGs をきっかけにユースが集い・学び・繋がる場づくりを行っています。

話題提供では、環境学習センターアスエコが行っている若手の環境学習指導者を育成する取組や環境教育に関心のある高校生から社会人まで約 250 人が集うイベントのご紹介をします。

さらに、昨年、日本 ESD ユースコンファレンスへ参加したのをきっかけに、ユースの実行委員を募り、岡山市と協働して開催した SDGs×ユース・ネットワーク・ミーティングについてご紹介します。

今後の課題は、ユースがマルチステークホルダーと連携し、ムーブメントを起こせる仕組みの構築だと考えています。その為には何が必要なのかこの機会に、ぜひ情報交換させて頂けますと幸いです。



セッション 4

分科会 4：体験活動を提供する組織内の ESD 意識醸成

話題提供① 国立青少年教育振興機構「環境教育推進プロジェクト」

渡邊 剛志（わたなべ たけし）

国立青少年教育振興機構本部総務企画課 課長補佐

プロフィール

京都教育大学教育学部総合科学過程環境学コース自然環境学専攻卒業

大阪体育大学大学院スポーツ科学研究科修了

国立曾爾青少年自然の家（奈良県）、国立吉備青少年自然の家（岡山県）、国立青少年教育振興機構本部子どもゆめ基金部国際・企画課を経て現職

樋口 拓（ひぐち たく）

国立青少年教育振興機構本部調査広報課 課長補佐兼青少年教育研究センター企画室長補佐

プロフィール

青森大学大学院修士課程修了（環境教育学）、メディカルハーブコーディネーター、オーガニックアドバイザー。国立青年の家事業課（中央、江田島）、国立青少年教育振興機構にて総務企画部総務企画課、教育事業部（企画推進課、国際・研修支援課、事業課）を経て現職。家庭と自然と四季の行事を繋ぐ私的プロジェクトを主宰。

発表事例の概要

平成 28 年 12 月「SDGs 実施指針」決定、平成 30 年 6 月「環境教育等促進法」に基づく「環境保全活動、環境保全の意欲の増進及び環境教育並びに協働取組の推進に関する基本的な方針」の変更を閣議決定し、体験活動の意義を捉え直すとともに、「体験の機会のある場」の積極的な活用を図るなど、当機構が次代を担う青少年を対象に、持続可能な開発や環境保全に関する教育を推進する必要性が増してきていることから、令和元年 5 月に当機構の環境教育に関する取組を推進するための「環境教育推進プロジェクトチーム」を設置しました。

本プロジェクトは令和 2 年度までの取組で、その間に「機構の環境教育推進の指針作成」、「環境教育の季刊誌（内部用）発行」、「職員用のテキスト作成」、「人材育成」の 4 点に取り組みます。



セッション 4

分科会 4：体験活動を提供する組織内の ESD 意識醸成

話題提供② 伊豆半島ジオパークの ESD は地域の意識変化に役立つのか

鈴木 雄介（すずき ゆうすけ）

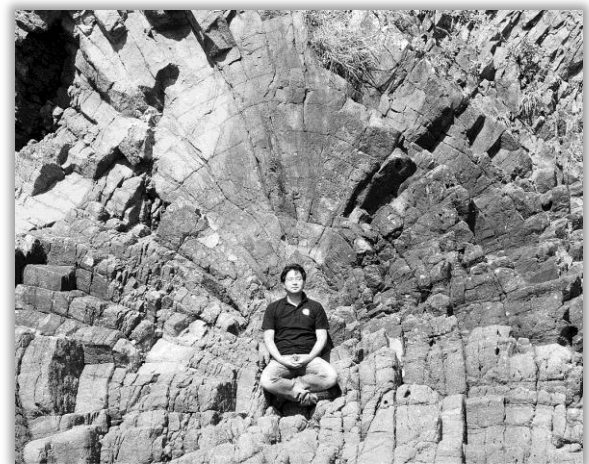
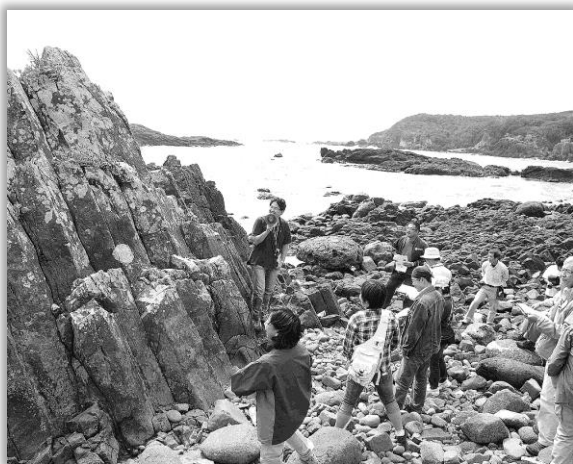
伊豆半島ジオパーク推進協議会 専任研究員

プロフィール

静岡県三島市出身。専門は火山地質・防災で、地質調査や測量を行う会社で、地質調査や火山防災、を中心とした仕事をしてきた。足もとにある大地から地域のことを見直し、風土にあった持続的な地域づくりをしていこうというジオパークの理念に共感し、2011 年から現職。複雑な地球のはたらきを学び楽しむためにがんばっている。

発表事例の概要

伊豆半島ユネスコ世界ジオパークは 15 の市町や民間事業者、NPO 等の 72 団体で構成される推進協議会で運営されています。推進協議会は持続的な開発を考え実現していくための人づくり地域づくりを目的として、地域の各種団体と協働しながら、地域資源を活用した教育や、自然や文化を楽しみ知ることができるツーリズムを通じて「自然と人間とのかかわりを理解する」ための取り組みを行っています。自然災害に備える意識醸成もこの文脈の中で取り組んでいます。幸いにもこうした活動に興味を持ち自発的に参加する方は増えている一方、こうした人材はもともと自然や文化に強い興味を持った層であり、地域としての動きになっているとは言えません。広い対象地域、多数の団体に ESD や SD の意識を広げていくため、活動のすそ野をどのように広げていくかが課題です。



セッション4

分科会5：AI等の技術革新と教育・人材育成について考える

話題提供① 自然と人を紡ぎ直すICTの活用：リアルとバーチャルの相互補完

中村 和彦（なかむら かずひこ）

東京大学大学院農学生命科学研究科 助教

プロフィール

1984年生まれ。長野県千曲市出身、千葉県流山市在住。東京大学農学部卒業、同大学院新領域創成科学研究科で博士（環境学）取得。専門は森林環境教育におけるICT活用の方法論。現在、東京大学大学院農学生命科学研究科助教、日本環境教育学会理事（編集委員長）、千曲市大田原地区未来構想アドバイザー等。

発表事例の概要

環境教育およびESDでは、身近な地域の課題が重視される一方で、気候変動といった地球規模の課題にも目を向けることが求められています。しかし、両者の関係は極めて複雑であり、その繋がりを実感することは困難です。この時空間的な隔たりにICT（情報通信技術）で克服する方法論に関する実践研究を、森林環境教育の分野で行っています。主には、国内数カ所に設置している定点カメラ映像を用いて、長いものでは20年以上にわたる変化を観察する教材開発などです。さらに、これを身近で実感を伴う学びとするために、定点カメラ現地での自然体験活動と組み合わせる方法論の開発にも取り組んでいます。仮想的（バーチャル）なICT活用は、本物（リアル）の体験と対比され批判的に扱われることも多いですが、リアルとバーチャルを相互補完的に捉えることで、リアルな自然体験の質も向上し、ひいては自然と人間との現代的な深い関係を紡ぎ出すものと考えています。



セッション 4

分科会 5：AI 等の技術革新と教育・人材育成について考える

話題提供② サイエンスブリッジコミュニケーターが挑む 地球規模課題の解決

秋永 名美（あきなが なみ）

株式会社リバネス 創業開発事業部/リバネスシンガポール 取締役 CAO

プロフィール

東京理科大学理学部物理学科卒業、東京大学大学院 Graduate Program in Sustainability Science 修了
修士（サステナビリティ学）。日本ユネスコ国内委員会委員。2015 年 11 月には「ASEAN YOUNG
LEADERS SUMMIT」の日本代表として参加し、教育分野における政策提言を行った。「多様性の価値を
最大化する」をミッションに、ASEAN 諸国にて科学技術と社会を橋渡しする次世代リーダーの育成、ア
ントレプレナー支援に取り組む。

発表事例の概要

SDGs の達成や ESD の推進が求められる現代、本質的に重要なことは科学技術と社会の橋渡しを通し
て地球規模課題の解決に挑むことだと考えられます。

株式会社リバネスは、「科学技術の発展と地球貢献を実現する」を理念に、国内外で教育・研究・人材・
創業応援活動を展開し、科学技術をわかりやすく伝えるサイエンスブリッジコミュニケーションを生
業に次世代研究者の巣立ちを応援しています。

この取組みを東南アジアにも広げるなかで、国ごとに研究教育活動のアプローチは異なれど、科学技術
と社会の橋渡しを担うサイエンスブリッジコミュニケーターの存在が社会の持続可能な発展の鍵とな
ります。この考えかたを広く浸透することで、今後さらに発展する科学技術とそこから生まれる未来に
ついて自ら考えられる人材を増やしていきたいと思えます。



モデレーター、ファシリテーター プロフィール

セッション2 パネルディスカッション：

SDGs を地域で達成していくための人づくりとそのためのネットワークのさらなる展開

モデレーター 及川 幸彦（おいかわ ゆきひこ）

東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 主幹研究員

東京大学大学院教育学研究科海洋教育センター主幹研究員。地球環境学博士。長年、気仙沼市を拠点にユネスコスクールやRCEなどのESDの推進に努め、東日本大震災の際には学校及び教育委員会の管理職として教育復興に携わる。元日本ユネスコ国内委員会委員、ESD円卓会議議長、日本ユネスコ協会連盟理事、ESD活動支援センター上席アドバイザー等を務め我が国のESD施策に貢献する。

セッション3 グループディスカッション：地域でESDを広め、深めるための課題と工夫

ファシリテーター 松原 裕樹（まつばら ひろき）

NPO法人ひろしまNPOセンター 事務局長／中国地方ESD活動支援センター

1982年広島生まれ。NPOや企業、渡米経験を経て、環境、教育、地域づくり、観光、防災などに関する事業の企画、運営、コーディネートを行っている。2017年からひろしまNPOセンター事務局長に就任。NPOやボランティア活動の支援、地域の課題解決やSDGsの達成に向けた多様な主体との協働に取り組む。

セッション4 分科会：「ESD for 2030」を見据えたESD推進のあり方

分科会1：新しい学習指導要領をふまえ社会とすすめるESD

ファシリテーター 中澤 静男（なかざわ しずお）

奈良教育大学次世代教員養成センター 准教授／近畿ESDコンソーシアム 事務局長

23年間の公立小学校勤務の後、指導主事を経て現在は奈良教育大学でESDを研究している。ESDは授業者・学習者双方にとって、「おもしろくて」「やりがいのある」学び。自発的で多方面に発展するのがESD特有の探求であり、この学びの出発点となる「?」「!」を脳内に発生させるものについて研究しているところである。

分科会2：企業がめざす地域におけるSDGs人づくり

ファシリテーター 石丸 哲史（いしまる てつじ）

福岡教育大学 教授

主として地理学の立場からESDの研究に取り組んでいるが、とりわけ教育課程の中でどのようにESDを展開していくかに焦点を当てている。最近、ソーシャルビジネスを中心としたSDGsに向かうビジネスの研究も行っている。

モデレーター、ファシリテーター プロフィール

分科会 3：ユースと共に進めるマルチステークホルダーの連携

ファシリテーター 飯田 貴也 (いいだ たかや)

NPO 法人新宿環境活動ネット 理事・事務局長／ESD 日本ユース

「環境学習コーディネーター」として、学校と企業・団体等をつなぎ、主に小・中学生を対象とした出前授業を企画・実施。「ESD 日本ユース」「日本 ESD 学会 若手の会」といったネットワーク運営に携わりながら、「ESD 円卓会議」等で委員を務めるなど、ユース世代で学び合い、集めた声を社会に発信すべく活動中。

分科会 4：体験活動を提供する組織内の ESD 意識醸成

ファシリテーター 大崎 美佳 (おおさき みか)

北海道地方 ESD 活動支援センター／環境省北海道環境パートナーシップオフィス (EPO 北海道)

札幌市出身。酪農学園大学生命環境学科卒業。人生のターニングポイントは大学時代に海外の方を含めた様々な方との出会い。国際分野の団体に 3 年間所属し JICA の研修事業等を担当。2015 年度から現職。SDGs の普及啓発や ESD の推進を担当。好きな言葉は「動けば変わる」。

分科会 5：AI 等の技術革新と教育・人材育成について考える

ファシリテーター 近森 憲助 (ちかもり けんすけ)

鳴門教育大学 客員教授

四国地方 ESD 活動支援センターのセンター長として、ESD に関わりながら、鳴門教育大学客員教授及び高知学園短期大学参与として、徳島県鳴門市と高知県高知市を行ったり来たりしながら仕事をしている。

セッション 5 全体統括

モデレーター 棚橋 乾 (たなはし かん)

多摩市立連光寺小学校 校長／全国小中学校環境教育研究会 副会長

東京都多摩市立連光寺小学校校長。東京都小中学校環境教育研究会会長。環境省中央環境審議会臨時委員。中学校教諭として環境教育を実践し、生態系、生き物、エネルギー、ゴミ、循環等を理科の授業や総合的な学習の時間で指導してきた。ESD によって、汎用的能力と環境保全意欲を高めることが、教育の SDGs への貢献であり持続可能な社会づくりのために必要なことと捉えて、研究と実践を続けている。

総合司会



平野 啓子（ひらの けいこ）

日本ユネスコ国内委員会広報大使／語り部・かたりすと

【職業】語り部・かたりすと、元 NHK キャスター

【役職】日本ユネスコ国内委員会 広報大使、大阪芸術大学放送学科教授、
武蔵野大学非常勤講師（伝統文化研究／朗読・語り・舞台演出）、
日本の語り芸術を高める会 会長

静岡県沼津市出身。早稲田大学卒業後、東京都歴史文化財団職員を経て、NHK キャスター、大河ドラマ「毛利元就」の語りなど多くの番組で司会、語り手、ナレーションを務める。一方、舞台上で名作・名文を暗誦。コラムやエッセイの執筆などの活動も行っている。また、過去には文部科学省中央教育審議会委員、日本ユネスコ国内委員会委員などの公職を歴任。平成9年度芸術祭大賞受賞。「語り」で防災や地域振興、多摩川流域の活性化等に関わる。平成26年度文化庁文化交流使を務め、ドイツ・トルコを訪問。現地で日本文学の「語り」を日本語の実演で伝える。



腰塚 安菜（こしづか あんな）

ニュースメディアライター／株式会社博報堂勤務

1990 年生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒業。在学期からオーガニックやフェアトレードの商品性・社会性に注目し、環境配慮型ライフスタイルを発信。2014 年 株式会社博報堂入社。2016 年より日本環境ジャーナリストの会（JFEJ）所属員。平成28年度・平成29年度社会人ユース ESD レポーターとして、地元の横浜を中心に関東地区を取材。一般社団法人 ソーシャルプロダクツ普及推進協会（APSP）主催「ソーシャルプロダクツ・アワード（2013-2018）」審査員を経て、ソーシャルプロダクツ PR に従事。

出展組織・団体

会場：国際交流棟 1 階 国際会議室内および同会議室前室（配置図⇒P31）

※以下、区分別・配置番号順に掲載※

<地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）登録団体>

<p>立教大学 ESD 研究所 【全国規模の ESD 推進団体】</p> <p>当研究所は、ESD 教育システムの具体的研究と、教育企画及び教育者の人材養成システムを研究開発するとともに、国内外のネットワーク及び産公学の連携を強化しながら ESD の実践的研究を行うことにより、ESD を実質的に機能させる「人づくり」「地域づくり」の創出を達成し、社会の発展に寄与することを目的とする。</p>	2
<p>認定 NPO 法人 アクト川崎</p> <p>地球温暖化対策、環境保全の活動を多くの市民団体、事業者、学校、行政と推進するとともに、SDGs・ESD に関する情報発信・普及啓発活動、環境分野・まちづくり分野を中心とした人材育成、活動支援を通して、持続可能な社会の実現に取り組んでいます。</p>	3
<p>特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば</p> <p>環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的としています。2018 年度から SDGs 達成のための ESD 担い手事業を展開しています。</p>	4
<p>一般社団法人 あがのがわ環境学舎</p> <p>新潟水俣病問題が今も続く阿賀野川流域の地域再生を目指す団体で、これまで「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」の企画運営などを担っている。阿賀野川流域の膨大な史料を駆使したパネル展やイベントを開催する一方、公害の発生経緯を社会背景や企業側視点も含めて学べる環境学習プログラムなども提供している。</p>	5
<p>一般社団法人 新宿ユネスコ協会</p> <p>ユネスコ憲章の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に寄与することを目的とする。具体的には、さまざまな地域貢献を通して世代間の相互交流をはかり、ESD や SDGs の観点から「元気な地域づくり・国づくり」の実践活動を行っている。</p>	6
<p>関東地方 ESD 活動支援センター・地域 ESD 拠点連携事業（SDGs 文化祭）</p> <p>SDGs が注目される中、ユースの中には SDGs に関心があっても学び活動する機会が少ないという声を受け、中高生に参加を呼びかけて実施。7 月より学校や学年を越えてグループを作り、アクションした成果を 11 月に発表。実行委員会は、(一社) ESD TOKYO と関東 ESD センターが中心となり、都内の ESD 拠点到登録されている教育機関の協力で実施した。</p>	7
<p>一般社団法人 ネクストステップ研究会</p> <p>私たちは、三重県四日市市を中心とする北勢地域で活動している団体です。学校や市民向け ESD 講座（主に参加型ワークショップ）や SDGs の企業向けセミナーなどを開催しています。また、メンバーは、里山、海、川で活動している者、空き家やごみ問題に関心を持っている者などがいます。是非、四日市へ来てね。</p>	9
<p>信州 ESD コンソーシアム</p> <p>信州 ESD コンソーシアムは、信州大学が中心となって 2017 年 2 月に発足した ESD 推進団体で、県内ユネスコスクールのほか教育委員会、ユネスコ協会、NGO、企業・団体等の多様な主体が加盟しています。信州 ESD コンソーシアムは長野県全域に ESD を普及し、またその活動を促進することを目標として、ESD に関連する情報発信や実践のコーディネート、各種研修会や交流会の開催などに取り組んでいます。</p>	10

一般社団法人 長野県環境保全協会	11
<p>当協会は長野県内の企業、団体、個人の優れた環境保全の活動を広く県民に紹介し、助成し、また個々の活動の力を結集することによって、長野県民の環境保全の意識を高めその活動を支援しています。</p>	
特定非営利活動法人 えひめグローバルネットワーク	13
<p>えひめグローバルネットワークは、あらゆる人々が人として平和な日々をおくることができる持続可能な社会を目指して、(1) 国際協力、(2) 環境保全、(3) ESD(持続可能な開発のための教育)、(4) ネットワーク・パートナーシップという4つの活動を柱とし、地域に根ざした市民活動を展開しています。</p>	
大牟田市教育委員会	15
<p>大牟田市では、平成24年1月に市内全ての公立小・中・特別支援学校が一斉にユネスコスクールに加盟し、SDGsの達成に向けてESDを推進している。各学校においては、地域の特色を生かし、地域と連携したESDを展開している。また、市長を本部長とする大牟田市ESD推進本部を設置し、市をあげてESDの推進・充実を図っている。</p>	
会津ユネスコ協会	17
<p>会津ユネスコ協会では、地域内でユネスコスクールを普及させるため、地教委に働きかけ、現在小中学校6校が認証を受けた。幼児画展やユネスコ教室の開催、ユネスコ作文コンクールや書き損じはがき収集を行い、持続可能な社会を構築する人材育成に取り組んでいる。</p>	
福島工業高等専門学校	18
<p>本校は平成28年度にサステナブルスクールに採択され、現在は地域ESD拠点としても実践的な活動に取り組んでいる。持続可能な社会構築等をテーマとした国際会議、全国高専対象の国際セミナーを担当した他、福島復興等の取組について、外国人対象のスタディーツアーを開催している。また、小中学校への出前講座を行っている。</p>	
藤クリーン株式会社	20
<p>産業廃棄物を適切にリサイクルすることで、限りある資源を守り循環型社会の実現を目指している当社のリサイクルセンターを環境学習の場として、学校ほか様々な主体にご利用いただいています。また、再生品を使用したビオトープガーデンに災害発生時用の備蓄倉庫等を整備し、地域住民や行政と防災活動にも注力しています。</p>	
NPO 法人 隠岐しぜんむら	21
<p>隠岐諸島の自然環境が守られていくことを目指し、持続可能な地域づくりのための活動を行い、地域の発展・住みよい地域づくりに寄与することが団体の目的です。地域づくりにおける課題解決のため、環境教育等の活動を通し、環境の現状や課題を提議し一緒に考えてもらいながら、自然保全のための取り組みを実施しています。</p>	
岡山市京山地区 ESD 推進協議会	22
<p>本協議会は岡山市北区京山地区において、地球と地域と自分たちの未来のため、公民館を拠点に、学校、地域、NPO、企業などのマルチステークホルダーが協働して地域教育力の向上や地域コミュニティの絆を深める活動などを通し、ESDやSDGsを導入した地域総動型による持続可能な社会づくり、人づくりを推進している団体です。</p>	
公益財団法人 水島地域環境再生財団	23
<p>みずしま財団は、水島における公害の経験を踏まえ、市民・企業・行政・大学等との協働により、地域の環境再生やまちづくりに取り組んでいます。そのための調査研究事業を行うとともに、公害の教訓をはじめ、水島地域の様々な資源を活かした環境学習活動を展開することで、持続可能な社会を担う人材育成に取り組んでいます。</p>	
公益財団法人 しまね海洋館	24
<p>当館で開催した環境教育研修会受講メンバーにより結成されたチーム「いわみっこ大作戦！」で地域学校教育を支援。子どもたちの主体性を重視しつつ、多様なステークホルダーが船頭となり、学びの場を提供しています。</p>	

岡山 ESD 推進協議会	岡山 ESD 推進協議会は、公民館や学校、NPO、大学、企業など、様々な組織と協働して、将来の岡山と世界のことを共に学び、考え、行動する人が集う地域づくりを目指しています。ひとつの組織だけでできないことは、組織間で連携し、岡山地域全体でゆるやかなネットワークをつくって ESD を進めています。	25
特定非営利活動法人 大阪環境カウンセラー協会	当協会は、環境に関する専門知識や豊富な経験を持つ“環境カウンセラー”を中心に構成され、その知識や経験をもとに、市民・市民団体、事業者、自治体、教育機関など様々な人々と環境保全活動の推進及び支援活動を行っています。これらの活動が評価され“第1回環境カウンセラー環境大臣賞”を受賞しました。	27
近畿 ESD コンソーシアム	近畿 ESD コンソーシアムでは、奈良教育大学が核となり、ESD の普及・推進を進めています。特に学生、若者、教員を対象とした ESD 研修として ESD ティーチャープログラムを展開しています。近畿 ESD コンソーシアムのキーワードは『不東』です。決して後戻りしないという決意で活動しています。	28
<全国規模の ESD 推進団体>		
公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 (NACS)	NACS は全国に約 2,600 名の会員を有する消費生活に関する我が国最大の専門家集団です。NACS では、主に小中学校、高校、大学向けに、独自のアクティブ・ラーニング教材を作成し、その教材を使って会員講師が無料で学校の授業を行う取組を 30 年間続けてきました。企業や自治体と連携して、学校に環境教育を行う取組も行っています。	30
特定非営利活動法人 持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)	ESD-J は、2005 年～2014 年の「ESD の 10 年」を契機として、市民のイニシアティブで“持続可能な開発のための教育”を推進するネットワーク団体です。ESD に取り組む NGO/NPO・教育関連機関・自治体・企業・メディアなどの組織や個人がつながり、国内外における ESD 推進のための政策提言、ネットワークづくり、情報発信を行っています。	31
JICA 広報室 地球ひろば推進課	JICA は開発途上国での国際協力の経験で培ってきた知見や人材、また国際協力の現場を活用し、国際理解教育／開発教育支援事業を JICA 地球ひろば及び日本国内の 15 拠点で実施しています。学校の授業等で役立つ教材や実践事例を JICA 地球ひろば HP の「先生・生徒のお役立ちサイト」にて多数紹介しています。	32
地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)	個人、民間団体、事業者、行政など多様な主体のパートナーシップによって持続可能な社会の実現を目指す拠点として設立されたのが GEOC です。全国の地方環境パートナーシップオフィス (EPO) とも連携しながら、グローバルからローカルまでのつなぎ役として活動しています。	33
ESD 日本ユース／公益財団法人 五井平和財団	「ESD 日本ユース・コンファレンス」は各地で ESD に取り組む多様な若手リーダーたちが業種や分野を越えてつながり、学び合い、連携しながら、社会の新たな潮流を創り出す場です。参加者はその後も、協働・連携する実践コミュニティ「ESD 日本ユース」として、全国各地で継続的に活動しています。	34
日本 ESD 学会	日本 ESD 学会は、持続可能な社会の実現に向けて ESD の理論的・実践的研究と、ESD 実践の深化・発展を目指しています。教育関係者、研究者、SDGs に取り組む企業、行政、NPO・NGO、市民、学生など多様な人々が出会い、つながり、協働し、共に研究を深めていく学会です。	35

こどもエコクラブ全国事務局（公益財団法人 日本環境協会）	36
<p>こどもエコクラブは、幼児（3歳）から高校生まで誰でも参加できる環境活動のクラブです。子どもたちが人と環境の関わりについて理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることを目的としてさまざまな組織や人との連携・協働によって活動しています。</p>	
公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟	37
<p>UNESCOの理念に賛同し平和の礎と持続可能な社会を築くことを目指すNGOとして活動しています。全国に約300あるユネスコ協会・クラブとともに、途上国への教育支援（世界寺子屋運動）や100年後の子どもたちに地域の文化・自然遺産を伝える活動（未来遺産運動）、東日本大震災で被災した子どもたちの教育環境を整えるための活動（ユネスコ協会就学支援奨学金）等を行っています。</p>	
特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク	38
<p>日本ジオパークネットワーク（JGN）は、日本国内のジオパークとジオパークをめざす地域をサポートし、ジオパークのネットワークの軸となる特定非営利活動法人です。</p>	
一般社団法人 日本環境教育学会	39
<p>環境教育に関する研究及び実践の推進を目的とする学会です。研究者や実践者、企業、民間団体など多様な会員が所属しています。入会いただくと、環境教育に関する研究成果や実践報告、日本内外の動向などを知ることができます。また、年次大会などご自身の実践や研究を発表し、広く情報を発信することもできます。</p>	
公益財団法人 AFS 日本協会	40
<p>高校留学など異文化学習の機会を提供する教育団体です。第一次・第二次世界大戦中に傷病兵の救護輸送をしたボランティア組織American Field Serviceに活動起源をもち、現在加盟国は60か国、交流国は100か国以上に及びます。世界5万人超のボランティアとともに、多様な文化・価値観の人々と「共に生きることを学ぶ」活動を継続しています。</p>	
独立行政法人 国立女性教育会館	41
<p>男女共同参画推進に関する国内唯一のナショナルセンターとして、研修、国際貢献、広報・情報発信、調査研究の4つの柱で事業を展開。全国の女性関連施設、地方自治体、民間団体、企業、大学等との連携・ネットワークを生かして、社会に対して幅広くアプローチすることで、男女共同参画社会の実現を目指しています。</p>	
公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）	42
<p>ACCUはユネスコの基本理念に基づきアジア太平洋の人々と協働し、誰もが平等に自らの意思で参加できる学びの基盤づくりを促進しています。ユネスコを主導機関として世界中で取り組まれている持続可能な開発のための教育（ESD）、ACCUでは国内外のネットワークを活用し、学校と学校、学校と様々な教育機関をつなげまとめる機関として地域におけるESD推進拠点の整備、質の高い教育の探求など学校教育を軸としたさまざまな活動・支援も行っていきます。</p>	
一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット	43
<p>地球温暖化対策を推進する団体・個人に対する技術、情報等の提供による活動支援</p>	
独立行政法人 国立青少年教育振興機構／子どもゆめ基金 【共催】	49
<p>我が国の青少年教育のナショナルセンターとして、青少年に対し体験活動等の機会や場を提供するとともに、指導者の養成及び資質向上、調査研究、関係機関・団体等との連携促進、青少年教育団体が行う活動に対する助成を行い、我が国の青少年教育の振興及び青少年の健全育成を図ることを目指しています。</p>	

<ESD 関係省庁>

文部科学省	我が国の提唱によって開始されたESDは、来年2020年から始まる「持続可能な開発のための教育:SDGs達成に向けて(ESD for 2030)」、そして「持続可能な社会の創り手」の育成が規定された新学習指導要領の全面实施により、新たなフェーズを迎えます。SDGsの達成に向けて、多様なステークホルダーと共にESDを推進していきましょう。	44
環境省	環境省では、「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」や「持続可能な開発のための教育(ESD)国内実施計画」に基づいて、環境・経済・社会の統合的な向上及び脱炭素化の実現を目指す地域循環共生圏の担い手となる人材の育成を促進する様々な施策や制度を推進しています。	45
外務省	外務省は、開発途上国への政府開発援助(ODA)を通じ、人間の安全保障を推進するために不可欠な分野として教育分野の支援を重視しています。また、教育に関する目標を含む持続可能な開発目標(SDGs)を市民や企業等に理解していただくための取組を通じてESD推進に取り組んでいます。	46
農林水産省	農林水産省は、命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を未来の子どもたちへ継承していくため、森林や水、生物多様性などの自然資本を保全するとともに、食品ロスやプラスチック問題などサプライチェーンの課題にも取り組み、サステナブルな農林水産業・食品産業を実現するための施策を推進しています。	47
消費者庁	普段食べたり、使ったりしている商品は、誰がどのように作って、運んで、私たち消費者の手に届いているのでしょうか。安いから、おいしいから、便利だから、だけではなく、「この商品を選ぶと、人や環境を大事にすることにつながる」という視点を取り入れる「エシカル消費」について考えてみませんか。	48

<ESD 活動支援センター>

ESD推進ネットワークの広域的なハブ機能を果たす地方ESD活動支援センター(地方センター)は2017年に、全国的なハブ機能を果たすESD活動支援センター(全国センター)は、2016年に、いずれも文部科学省、環境省によって開設されました。地方センターおよび全国センターは、相互に連携しながら情報の収集・発信、ESD支援体制の整備、ネットワーク形成と学び合いの促進、人材の育成等に取り組んでいます。

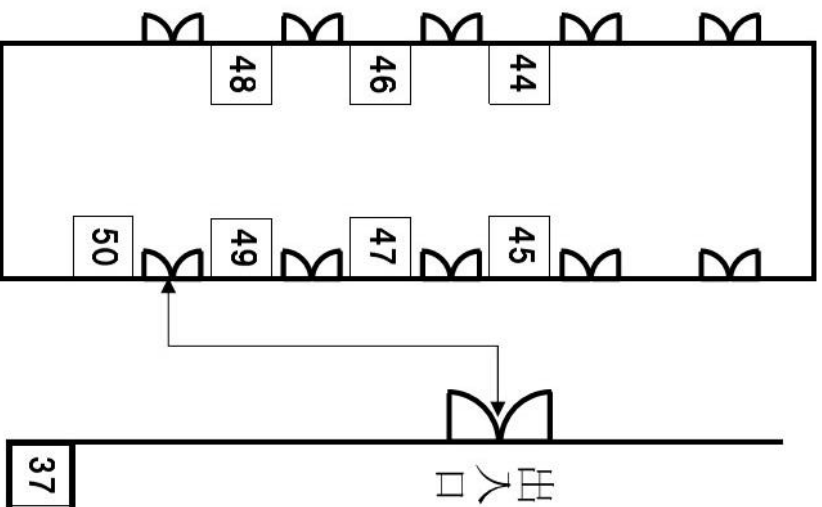
*全国センターの展示コーナーでは、株式会社タカラトミー社と地域ESD拠点との連携事業についてご紹介しています。

北海道地方 ESD 活動支援センター	1
東北地方 ESD 活動支援センター	19
関東地方 ESD 活動支援センター	8
中部地方 ESD 活動支援センター	12
近畿地方 ESD 活動支援センター	29
中国地方 ESD 活動支援センター	26
四国地方 ESD 活動支援センター	14
九州地方 ESD 活動支援センター	16
ESD 活動支援センター(全国センター)	50

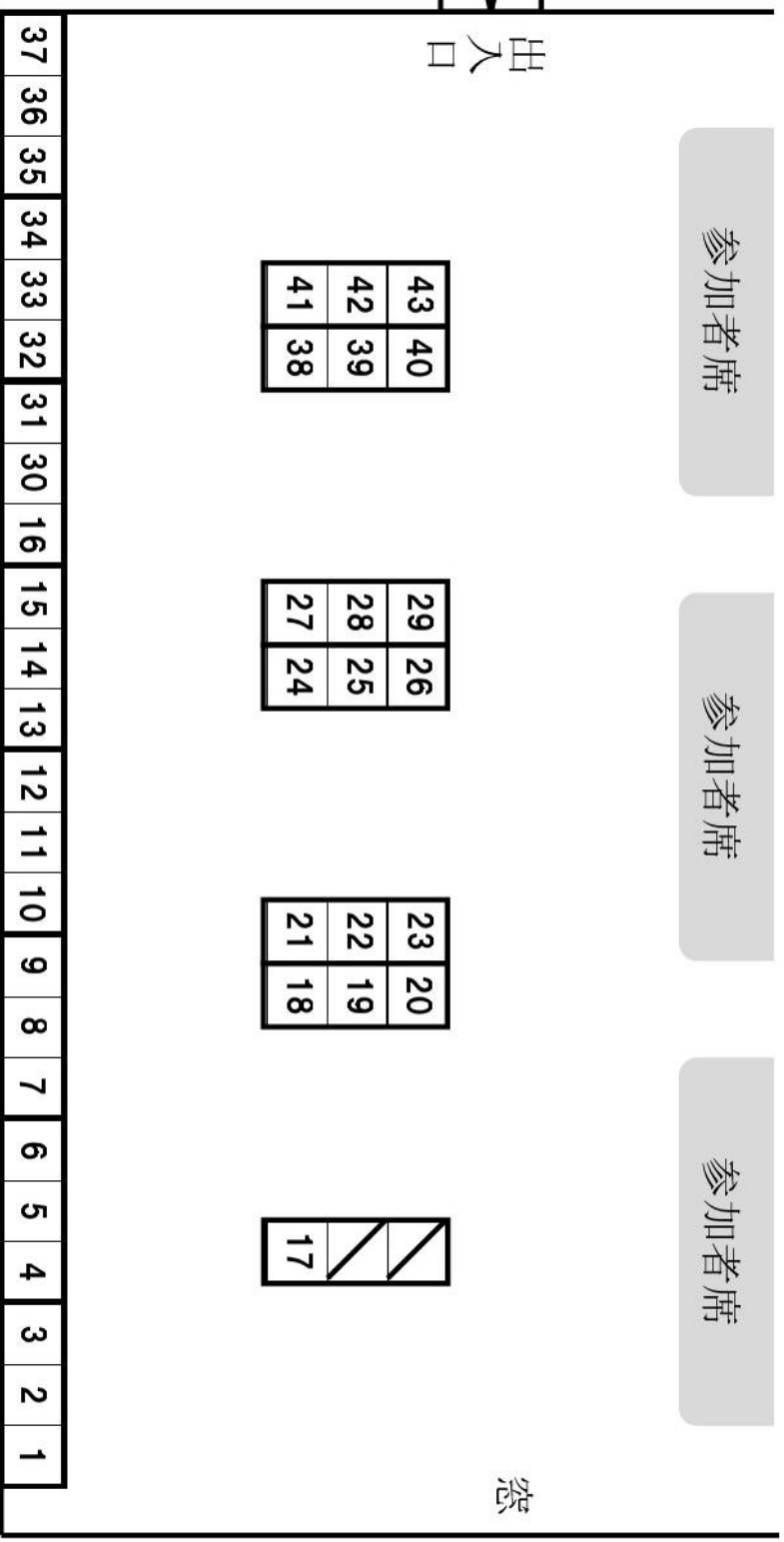
出展配置図

※図内数字は P26～30 の組織・団体名の右列の数字に対応しています。

【国際会議室前室】



【国際会議室内】



【参考】地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）登録一覧 [2019年11月30日現在]

	名称	担当地方センター
1	北海道教育大学釧路校 ESD 推進センター	北海道
2	羅臼町教育委員会	
3	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家	
4	特定非営利活動法人旭川 NPO サポートセンター	
5	一般財団法人北海道国際交流センター	
6	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川	
7	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル北見	
8	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森	
9	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル厚岸	
10	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川	
11	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄	
12	三笠ジオパーク推進協議会	
13	白滝ジオパーク推進協議会	
14	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立日高青少年自然の家	
15	認定特定非営利活動法人 霧多布湿原ナショナルトラスト	
16	特定非営利活動法人青森県環境パートナーシップセンター（AEPC）	東北
17	一般社団法人あきた地球環境会議（CEEA）	
18	特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて	
19	公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	
20	独立行政法人国立高等専門学校機構 福島工業高等専門学校	
21	公益社団法人仙台ユネスコ協会	
22	特定非営利活動法人うつくしま NPO ネットワーク	
23	特定非営利活動法人環境ネットやまがた	
24	只見町教育委員会	
25	気仙沼 ESD/RCE 推進委員会	
26	会津ユネスコ協会	
27	認定 NPO 法人茨城 NPO センター・コモンズ	関東
28	学校法人日本自然環境専門学校	
29	公益財団法人鼓童文化財団	
30	特定非営利活動法人アースライフネットワーク	
31	チャウス自然体験学校（NPO 法人 チャウス）	
32	公益財団法人キーブ協会	
33	筑波大学附属坂戸高等学校	
34	立教大学 ESD 研究所	
35	特定非営利活動法人エコロジーオンライン	
36	一般社団法人新宿ユネスコ協会	
37	成蹊学園サステナビリティ教育研究センター	
38	伊豆半島ジオパーク推進協議会・教育部会	
39	特定非営利活動法人環境パートナーシップちば（NPO 環パちば）	
40	多摩大学 アクティブ・ラーニング支援センター	

	名称	担当地方センター
41	新潟市水族館マリニピア日本海	関東
42	NPO 法人新宿環境活動ネット	
43	聖心女子大学グローバル共生研究所	
44	晃華学園中学校高等学校	
45	サンデンフォレスト（サンデンファシリティ株式会社）	
46	きりゅう市民活動推進ネットワーク	
47	キヤノンエコテクノパーク	
48	一般社団法人あがのがわ環境学舎	
49	認定 NPO 法人アクト川崎	
50	一般社団法人日本体験学習研究所	中部
51	一般社団法人ネクストステップ研究会	
52	名古屋ユネスコ協会	
53	一般社団法人長野県環境保全協会	
54	「なごや環境大学」実行委員会	
55	信州 ESD コンソーシアム	
56	豊橋ユネスコ協会	
57	石川県ユネスコ協会	
58	岐阜県ユネスコ協会	
59	中部 ESD 拠点協議会（国連大学認定 RCE Chubu）	
60	特定非営利活動法人地域の未来・志援センター	
61	近畿 ESD コンソーシアム	近畿
62	公益財団法人京都市環境保全活動推進協会	
63	公益財団法人吉野川紀の川源流物語	
64	特定非営利活動法人大阪環境カウンセラー協会	
65	公益財団法人淡海環境保全財団	
66	箕面ユネスコ協会	
67	花王エコラボミュージアム	
68	津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザ	中国
69	公益財団法人水島地域環境再生財団	
70	岡山市京山地区 ESD 推進協議会	
71	藤クリーン株式会社	
72	岡山地域「持続可能な開発のための教育」推進協議会	
73	公益財団法人岡山県環境保全事業団 環境学習センター「アスエコ」	
74	島根県立しまね海洋館	
75	公益財団法人山口県ひとづくり財団県民学習部環境学習推進センター	
76	特定非営利活動法人隠岐しぜんむら	
77	特定非営利活動法人 ECO フェューチャーとっとり	
78	特定非営利活動法人ひろしま NPO センター	
79	新居浜市教育委員会	四国
80	高松ユネスコ協会	
81	IKEUCHI ORGANIC 株式会社	
82	株式会社ハレルヤ	

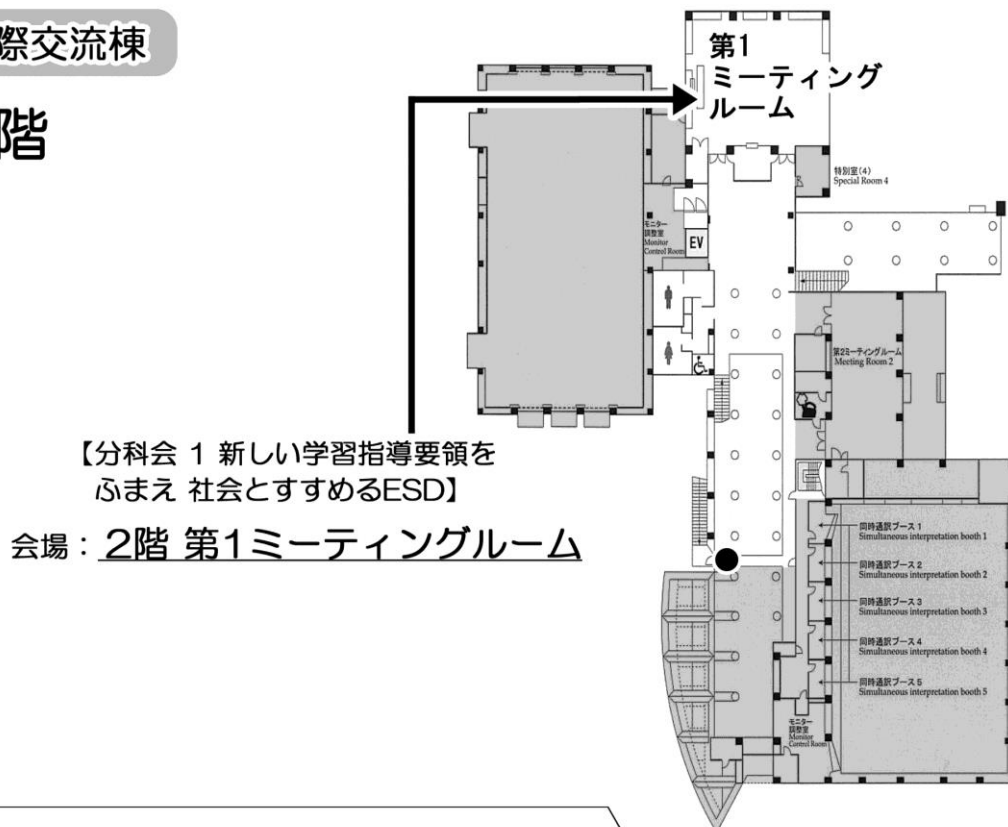
	名称	担当地方センター
83	株式会社 土佐山田ショッピングセンター	四国
84	室戸ジオパーク推進協議会	
85	株式会社平野 平野薬局	
86	特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク	
87	うどんまるごと循環プロジェクト（コンソーシアム）	
88	鹿島市 建設環境部 ラムサール条約推進室	九州
89	国立大学法人福岡教育大学	
90	大牟田市教育委員会	
91	北九州 ESD 協議会	
92	公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金	
93	一般社団法人環不知火プランニング	
94	認定 NPO 法人地球市民の会	
95	公益財団法人再春館一本の木財団	
96	一般財団法人沖縄県公衆衛生協会	
97	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立諫早青少年自然の家	
98	NPO 法人おおいた環境保全フォーラム附属はざこネイチャーセンター	
99	特定非営利活動法人 NGO 福岡ネットワーク	
100	宮崎県環境情報センター	
101	国立大学法人九州大学 水素エネルギー国際研究センター	
102	特定非営利活動法人おきなわ環境クラブ	

セッション4 分科会 会場マップ

●=非常口

国際交流棟

2階

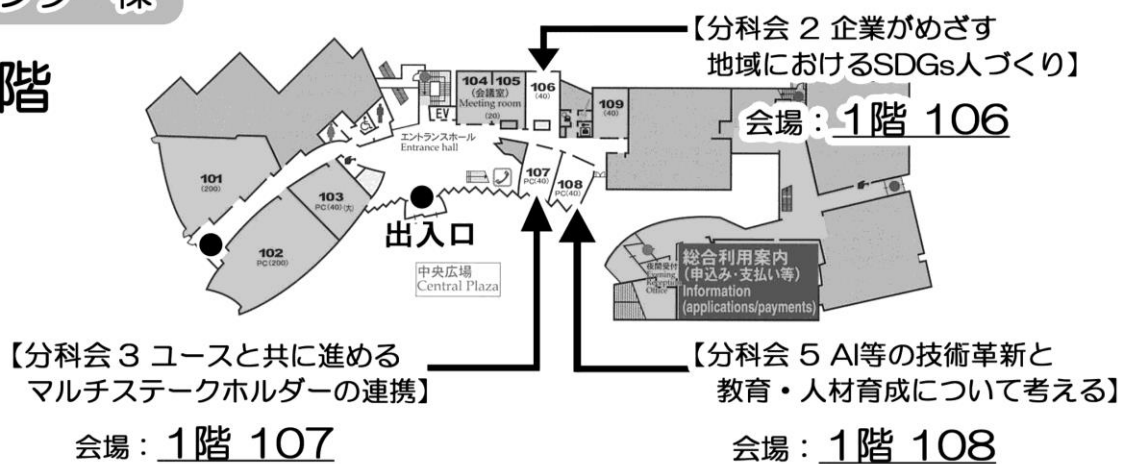


【分科会 1 新しい学習指導要領を
ふまえ 社会とすすめるESD】

会場：2階 第1ミーティングルーム

センター棟

1階



【分科会 2 企業がめざす
地域におけるSDGs人づくり】

会場：1階 106

【分科会 3 ユースと共に進める
マルチステークホルダーの連携】

会場：1階 107

【分科会 5 AI等の技術革新と
教育・人材育成について考える】

会場：1階 108

5階

【分科会 4 体験活動を提供する組織内のESD意識醸成】

会場：5階 512



会場マップ

国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
申込受付専用電話 03(3469)2525 FAX: 03(3469)2277
ホームページ <http://nyc.nije.go.jp>

- 食堂
■ DINING HALL
- レストラン
■ RESTAURANT
- 宿泊専用浴室
■ BATH ROOM
- コインロッカー
■ LOCKER
- 喫茶コーナー
■ COFFEE SHOP
- 売店
■ SHOP
- 自販機
■ VENDING MACHINE
- おむつ交換所
■ CHANGE THE DIAPER PLACE
- サービスコーナー（宅配便）
■ SERVICE CORNER
- コインランドリー
■ COINLAUNDRY
- オートメイト対応トイレ
■ MULTI-PURPOSE ROOM

- 交通案内**
- 小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約7分
 - 地下鉄千代田線 代々木公園駅下車 徒歩約10分 [代々木公園方面出口]
 - 京王バス 新宿駅西口(16番)より 代々木5丁目下車 渋谷駅西口(14番)より



国際交流棟

1階 国際会議室(セツショウ1~3、5、出展展示)
2階 同会議室前室(出展展示)
2階 第三ミニテイングルーム(セツショウ4、セミナー)

12月20日 (金)
◆受付 (12:15~)
◆セツショウ1, 2, 3
◆出展展示

12月21日 (土) 14:30~17:00
◆特別企画セミナー(2階 第三ミニテイングルーム)

宿泊A棟 Lodging Bldg.A
宿泊B棟 Lodging Bldg.B
宿泊C棟 Lodging Bldg.C
宿泊D棟 Lodging Bldg.D
浴室 Bathroom
Lodge

カルチャー棟

2階 レストランとき(懇親会)
12月20日 (金) 18:45~20:00
◆懇親会 (2階 レストランとき)

センター棟

1.5階 研修室(セツショウ4)
12月21日 (土)
◆セツショウ4 (分科会)

